



# きよくり news

## CONTENTS

- ・私が思うこと、聴いてほしい
- ・「体外受精・顕微授精」に挑んだ星先生の話に感動
- ・新スタッフ紹介



Muraguchi Kiyomura Women's Clinic

## 私が思うこと、聴いてほしい

院長 村口 喜代

### 合計特殊出生率 1.20 の衝撃

先日、2023年度の**合計特殊出生率が1.20**、**仙台市は1.05**、3年連続で過去最低を更新したと発表された。この先日本社会はようになってしまうのかと、先が見えない不安に愕然とした。



私は医師になって53年が過ぎた。「**人は誰でも結婚するもの**」と信じ切っていたので、卒業した年に結婚し、翌年に長女を、そして2年後長男を出産した。「産前産後休暇6週間」の時代、育児休暇は自分には無縁と心得、乳飲み児を抱えながら新米医師、研修生活を続け一心不乱の日々を過ごしたことが懐かしい。

“**産んでしまえば勝ちよ、何とかなるんだから**” “**親が無くても子は育つ**” そんな言葉を耳にしたこともある。お手伝いさんを雇い、親に助けられ・何とか生き延びてきた。

順風満帆に来たわけではない。子育てを巡って姑との衝突、離反、介護、子ども達との葛藤の日々・許しと和解・人並みの苦労はしてきたつもり。

時代は大きく変わってしまった。「婚前性交」が死語になり、性開放が進み、自己責任で生きられる社会? になった。1999年25年前、私がクリニックを開院したころは、性感染症が蔓延し、妊娠中絶が増え、大忙しの日々だった。2003年頃から妊娠中絶は激減してきた。性感染症も減少し、とは言え梅毒だけが急増している。性をめぐって日本社会は激変してきた。30年前日本で初めて「**セックスレス**」が定義された。今は夫婦の6割、セックスレス・普通のこととなった。**生涯未婚率 (男性1/3.5人、女性1/5.6人)**が上昇し続け、付き合う人がいない人が増え続け、“**できちゃった結婚**”に出会うことが珍しくなった。

泥臭く生きた・生きられた時代が懐かしい。情報化社会がものすごいスピードで進み、ついていくには大変なエネルギーがいる。もう撤退し、穏やかな日常を取り戻したくもなる。

慢性化する日本経済の低迷、相次ぐ値上げのニュースが続き、落ち着いた日々を描けない、素晴らしいスポーツ界のニュースに沸く、元気をもらう、・暗いニュースも日常茶飯事、社会の分断が進んでいく、不安な、不確かな時代はまだまだ続きそうである。

### 結婚、妊娠・出産、子育てを返上しないで生きていってほしい

“**子どもは何物にも代えがたい宝物である**” そのことが実感できる歳になった。確実に老いを感じる日々、家族がいることの有難さ、守られている、守ってくれるだろうと思えることで安らぐ。一昨年から、パーソナルのトレーニングジムに診療の終わった後、週1回通っている。**体力の減速**を少しでも食い止めて、もう少しは現職でいたい、いつまでも自立して生きていきたいと思うのである。

**診療の合間にも、皆さんの一言を聞かせてください。**

# 「体外受精・顕微授精」に挑んだ星先生の話に感動

患者情報管理 柴田 泰子



先日、院長が顧問を務める市民活動団体「リプロネットみやぎ」が公開研修会「体外受精・顕微授精の黎明期と現在～不妊症について知りたい～」を開催した。私は長く事務局をしており、今回のテーマは個人的にもとても興味があり楽しみにしていた。

私には二人息子がおり、一人は小学校6年生の11歳、もう一人は6歳の年長さんである。長男の妊娠出産は、人工授精や流産、切迫流産・早産、長期の入院、薬の副作用と大変だったこともあり、二人目は諦めていた。私が40歳だったある日、長男がぬいぐるみを赤ちゃんに見立てておむつ交換をしながら「きょうだい欲しい」と言い出し、私は「うちにはタロウ（猫）がいるじゃない」と答えたら、「猫じゃなくて人間がいいー！」と涙ながらに訴えてきた。もちろん私たち夫婦「きょうだいがいらないね」とは話していたが、自然にできる気配もなく、万が一できたとしてもきつとまた長期の入院生活で、両家の親にも頼れない状況にもう無理だと思っていた。そんな時に突然長男が涙で訴えてきたので「え、そんなに欲しかったの？」とかなり驚いた。しかし、そのことがきっかけで夫婦で話し合い「体外受精とか高度不妊治療を受ければもしかしたらギリギリいけるかもしれないから、『一度だけ』挑戦してみよう」ということになった。つまり「長く不妊治療はせず、一度の採卵の挑戦で、授かっても授からなくてもそれは運命」という気持ちで体外受精を始めたのだ。その時、41歳の女性が高度不妊治療で妊娠する確率は30%、出産までいける確率は9%とかなりの狭き門だったが、幸運なことに顕微授精を経て4035gの巨大児が生まれたのである（笑）。前置きが長くなったが、そんな経験をしている私だったので、「日本初の体外受精そして顕微授精」を成功させた星和彦先生のお話を聞けることがとても楽しみだった。

講演内容は深く専門的なものだったにも関わらず、星先生の柔らかなで気さくなお人柄と、エピソードの面白さで、一度も集中力を切らすことなく聞き入った。印象的だったのは、1978年に世界初の試験管ベビーがイギリスで誕生し、当時、東北大学で新生児の研究をしていた星先生が突然、故鈴木雅洲教授に呼ばれ「体外受精をやってくれ」と言われたこと。何度も専門外を理由に断ったが諭され、受け入れて体外受精の研究が始まったこと、ハワイ大学での過ごし方、また、帰国後、日本初の体外受精を成功させるまでのストーリーや、福島県立医科大学に移籍してから、再び日本初の卵細胞室内精子注入法（顕微授精）を成功させるまでの御苦労、躊躇、葛藤、不安など、当事者にしか語れないエピソードをたくさん聞けたことである。

講演を聞きながら、このように未知の世界を切り開いてくださった研究者達のお陰で母になれているのだなあと改めて感謝の気持ちが溢れてきた。受精させるまでのプロセスを具体的に知ると、それを自然に行っている人間のからだの仕組みはまさに生命の神秘であり、凄いことだと感動もした。素晴らしい講演をありがとうございました。

## 新スタッフ紹介

助産師 阿部美喜



助産師・不妊看護認定看護師です。

週に2日程度ですが、6月からスタッフとなりました。妊娠・出産だけでなく、思春期から更年期以降も、全ての女性が笑顔で過ごせることを望んでおります。妊活やフェムケアが得意分野のひとつです。気になることがありましたら、遠慮なくお声がけください。

村口きよ女性クリニックは、全ての女性の味方です。そのスタッフとして、皆さまが健やかでおられますよう一緒に歩いてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

**臨時休診**

- 8/13（火）～15（木）はお盆休みのため、
- 8/23（金）午後～8/24（土）は日本思春期学会参加のため休診となりますのでご了承ください。

発行元：村口きよ女性クリニック  
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>  
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

